

平成25年行政事業レビューシート

(文部科学省)

事業名	研究及び開発の向上に関する評価環境の戦略的構築		担当部局庁	科学技術・学術政策局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成23年度・未定		担当課室	企画評価課		企画評価課長 小山竜司		
会計区分	一般会計		政策・施策名	科学技術・学術政策の総合的な推進 VII-3. 科学技術システム改革の先導				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-		関係する計画、通知等	第4期科学技術基本計画 国の研究開発評価に関する大綱的指針 (平成24年12月内閣総理大臣決定) 他				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	研究開発の評価については、これまで「国の研究開発評価に関する大綱的指針」及び「文部科学省における研究及び開発に関する評価指針」を踏まえた評価を行ってきた。第4期科学技術基本計画においては、実効性のある科学技術イノベーション政策の推進、科学技術の成果の社会への還元の一層の促進が求められており、研究開発の質を高める上で、研究開発評価の重要性が益々高まっている。本事業においては、研究開発評価システムの一層の改善と充実を図るため、研究開発評価システムの在り方について幅広く検討を行うこと、評価に関する専門的知見や経験を有する人材の養成と確保など、研究開発評価システムを改善及び充実するための推進方策の具現化を図る。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	研究及び開発の特性に応じた評価方法、評価環境の構築のための調査・分析を実施するとともに、「文部科学省における研究及び開発に関する評価指針」の普及、研究開発機関等における研究開発評価の実施状況の把握や課題抽出のための意見交換を実施し、これらの結果をもとに実例集や報告書を作成・配布する。また、文部科学省、研究開発法人及び大学等の職員や研究者を対象に、国内外の有識者による研究開発評価に関する研修及び国内外における研究開発評価事例等の情報を共有するための研究開発評価事例研究会を実施する。							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求	
		補正予算	-	-	△0	-	-	
		繰越し等	-	-	-	-	-	
		計	-	35	32	27	28	
	執行額	-	-	23	23	-	-	
	執行率(%)	-	-	66.4	71.9	-	-	
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (毎年度)
	研究開発評価事例研究会において、参加者が「新たな知見を得た」と回答した割合		成果実績	%	-	98	92	80
			達成度	%	-	100	100	-
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	評価システムの改革を進めるための活動状況(研究開発評価シンポジウムの活動実績)		活動実績 (当初見込み)	-	-	研究開発評価シンポジウム1回(テーマ:研究開発機関の現状分析に基づく研究戦略の在り方について)(1回)	研究開発評価シンポジウム1回(テーマ:研究開発におけるアウトカム及びインパクトの評価について)(1回)	研究開発評価シンポジウム(テーマ:検討中)(1回)
単位当たりコスト	-(円/)		算出根拠 本事業は、事業概要に掲げた様々な活動を通じて、研究開発評価システムを改善及び充実するための推進方策の具現化を図るものであるが、大学及び研究開発機関等は、機関や研究開発の特性に応じた研究開発評価活動の構築を図る必要があり、これらの成果は様々な要素を踏まえ総合的に判断され、各機関等の規模や特性に応じて活用状況も異なるため、事業の成果実績や活動実績を一律の基準で金銭換算することが困難であり、単位当たりコストの算出になじまない。					
平成25・26年度予算 内訳	費目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由				
	非常勤職員手当	9百万円	10百万円					
	諸謝金	1百万円	1百万円					
	職員旅費	0.5百万円	0.5百万円					
	委員等旅費	1百万円	1百万円					
	庁費	4百万円	3百万円					
	外国人招へい旅費等	1百万円	1百万円					
	委託費	10百万円	10百万円					
計	27百万円	28百万円						

事業所管部局による点検						
	項目		評価	評価に関する説明		
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。		○	・研究成果の社会への還元、国の研究開発に対する投資の説明責任を果たすため、研究開発評価は必要不可欠であり、当該システムの戦略的な構築は、国が実施すべき事業である。		
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○			
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。		○			
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	・支出先の選定にあたっては、十分な公告期間を確保した上で競争入札を行っており、妥当性や競争性を確保している。 ・委託事業について、競争性の確保により、合理的な価格での落札が行われている。 ・不用率が大きくくなっている理由は、海外の研究開発評価に係る研修を行う際、平成24年度の研修テーマに沿った講師が、日本在住の外国人であったため、外国人招へい旅費や滞在費を節約できたことによる。		
	受益者との負担関係は妥当であるか。		○			
	単位当たりコストの水準は妥当か。		-			
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		○			
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○			
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		○			
事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	・当該事業で得られた成果物(各種事業の報告書等)については、研究開発機関をはじめ、広く一般にも利用できるようにホームページに掲載している。		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○			
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○			
重複排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-			
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名			
点検結果	<p>本事業により、研究開発機関等における研究開発評価活動の事例抽出及び他機関への普及、研究開発評価人材の育成などを実施し、研究開発評価システムの改善及び充実に資するための成果をあげてきた。平成24年度には、これまでの知見を整理するとともに課題等について分析を行い、「研究開発マネジメントにいかす評価～我が国の研究開発機関における研究開発評価活動の現状と課題～」をとりまとめた。今後は、大綱的指針の改定等を踏まえた文科省評価指針の改定に向けて、より実効的な研究開発評価の在り方について検討を行うとともに、本事業を通して、新たな課題についての情報収集や意見交換等を行う。</p>					
外部有識者の所見						
外部有識者による点検対象外						
行政事業レビュー推進チームの所見						
事業内容の改善	<p>1. 事業評価の観点：当該事業は、研究開発評価システムの一層の改善と充実を図るため、研究開発評価システムの在り方について幅広く検討を行うこと、評価に関する専門的知見や経験を有する人材の養成と確保など、研究開発評価システムの改善及び充実の推進方策の具現化を図る事業であり、予算執行状況の観点から検証を行った。</p> <p>2. 所見：当該事業は、平成23年度及び平成24年度決算において不用額が生じていることから、不用額が生じた要因を分析した上で、平成25年度の進捗状況を踏まえ、予算執行の実績を適切に概算要求に反映すべきである。</p>					
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
縮減	<p>本事業については、①外国人講師の招へいを伴う研究開発評価研修において、テーマ設定に沿った日本在住の外国人を講師として委嘱できたこと、②競争入札による委託事業において契約誤差が生じたこと等が、平成24年度において不用額が発生した原因と分析している。平成26年度以降は、引き続き先駆的な研究開発評価事例の知見や情報を収集するため、外国人講師の招へいを継続して実施し、また、新たなテーマで委託調査を行うために、それぞれ必要な経費を確保していくが、同時に、さらなる合理化努力を進めた結果、概算要求に▲0.117百万円反映した。</p>					
備考						
<p>研究開発評価に関する各種事業の実施について、以下のウェブサイトにおいて情報提供を行っている。 http://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/hyouka/main11_a4.htm</p>						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
	平成22年	0206/0209	平成23年	0188/0189/新23-0030	平成24年	0210

※平成24年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

文部科学省

非常勤職員 5.3百万円
庁費 4.9百万円
諸謝金 1.2百万円
委員等旅費 1.0百万円
職員旅費 0.3百万円

を含む

研究及び開発の特性に応じた評価方法、評価環境の構築のための調査・分析の実施や研究開発法人及び大学等の評価活動実施状況の把握や課題の抽出のため意見交換を実施する。また、国内外の有識者による研究開発評価に関する研修及び国内外における研究開発評価事例等の情報を共有するための研究開発評価事例研究会を実施する。

【総合評価入札・委託】

A (株)三菱総合研究所
10百万円

研究開発機関等における研究マネジメントにいかす評価の活用事例に関する調査・分析

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位: 百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックご
 とに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。費目と使途
 の双方で実情が
 分かるように記
 載)

A.(株)三菱総合研究所			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
人件費	業務担当職員にかかる人件費	6			
業務実施費	諸謝金、雑役務費、消耗品費、国内旅費、印刷製本費等	3			
一般管理費	直接経費(上記経費)の18.3%	1			
計		10	計		0
B.			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A. 研究開発評価推進調査委託事業

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)三菱総合研究所	研究開発機関等における研究マネジメントにいかす評価の活用事例に関する調査・分析	10	2	98%